

平成18年5月

Vol. 7

発行／名田島自治会連合会
編集／自治会総務部会
印刷／株式会社山口農協印刷

田園

農業公園みのりの丘や道の駅菊川などを視察

二月二十六日（日）、「地産地消」に関する視察研修を行いました。視察先は、下関市豊田農業公園みのりの丘、道の駅堂街道西ノ市、道の駅きくがわ・小日本ふるさと市。参加者は、三十七名。好天にも恵まれ、各施設で概要説明を受けました。みのりの丘は、十七億円かけての農業公園。「実



豊田農業公園みのりの丘で



会長
大林基宏

目前に 農政の大改革

去る四月八日に自治会連合会の総会を開催し、平成十七年度事業報告及び決算並びに十八年度事業計画及び予算が承認されました。名田島自治会は発足後、四年目を迎える

「の」の実体験を中心に都市と農村が交流しながら、「実り」ある時間を過ごせる場所づくりが目指されていました。農業体験、そば打ち体験、豆腐づくり・味噌づくり体験もできるようになっています。

道の駅西ノ市 温泉とホタル

道の駅堂街道西ノ市は、品数の多さにびっくり。温泉もあり、すぐ近くには「ホタルミュージアム」もありました。



みのりの丘でのイチゴ栽培

道の駅きくがわ・小日本ふるさと市（百円均一）は、地元産の野菜や漬物、花しばなどが持ち込まれていました。道の駅きくがわの販売手数料は、旧町内関係者は十五％、町外者は二十五％。冷凍は、五％加算とのことでした。

こととなりました。過去三年間の活動に際し、皆様方のご理解とご協力を得て、活動が展開できましたことに厚く御礼申し上げます。今年には合併後の県都山口市初の市議会議員選挙も行われました。十九年度から農政の大改革が押し進められようとされており、農業が置かれている、この現状を胸に刻み、自治会活動を展開して参りたいと考えております。

安全安心な住みよき「まほり」 18年度事業決まる

四月八日(土)、名田島自治会連合会の総会を開き、十八年度事業として、昨年に引き続き、環境問題、防災防犯対策、地産地消、少子化対策、地区の将来展望に取り組むほか、新たに地区社会福祉協議会主催の「住民座談会」への協力や十九年度から実施される「農地、水、環境保全」の活動へ参加することを協議、決定しました。

18年度の事業骨子

社会福祉協議会が主催する「住民座談会」に協力し、要望事項の整理を行い、各担当部会が対策を講じる。

また、19年度から実施される「農地、水、環境保全」等の施策に伴い、その活動に参加する。(実施担当団体は「土地改良区」で、平成十八年度から「土地改良区」も自治会連合会の会員と成られる予定です。)



みのりの丘のサラダホウレン草

環境問題

家庭から出るゴミの問題、分別収集の徹底化の取り組み、不法投棄禁止看板の設置、その他の方法を検討し、取り組む。

防災防犯対策

三方を水に囲まれた環境にあり、高潮、台風に非常に弱い側面がありますので、自主防災、自主避難態勢の確立、啓発、

平成18年度 名田島自治会予算 (単位:円)

科 目	本年度予算額	備 考
収入の部		
自治会費	510,000	475戸×1,000 7法人×5,000
補助金	1,000	
雑収入	1,000	
前年度繰越金	396,822	
合 計	908,822	
支出の部		
会議	80,000	会議運営
負担金	25,000	市自治会 先進地視察
事務費	20,000	
備品費	1,000	
交際費	20,000	
交通費	20,000	
研修費	110,000	自治会役員研修
総務部会	100,000	自治会報 広報誌発行他
民生部会	170,000	地産地消視察他
土木部会	70,000	清掃活動 除草他
教育部会	50,000	防犯用品助成
防災対策費	1,000	
予備費	241,822	
合 計	908,822	



豊田農業公園でのソバ打ち

地産地消

地産地消について、学校給食には、地元産消費を目指して、山口中央農協から食材が供給される体制ができています。が、穀倉地帯にふさわしい地産地消に取り組む。

少子化対策

※中長期的の取り組みとして、昨年度からの継続事業。穀倉地帯であるが、農業の再編期に直面し、若者の定着が少なく、ますます少子化に拍車がかかっている現状を打開する対策を検討する。

定着に取り組む。自主防災会設立総会を開催し、防災訓練を実施する。子供を犯罪から守るために「見守り隊」の充実を図る。

変わらなきやー自治会も



副会長 三輪 正明

山口市も合併という大きな変革をきっかけに明日への希望がもてる新生「山口市」としてのまちづくり事業予算が発表されました。

名田島自治会も新年度の事業予算も決まり、いよいよ本格的な活動に着手しなければなりません。地区が目指す方向をつかみ、そのための具体策を示すことが肝要であります。

すべての事業の成功の要素は、「金を出す人」「知恵を出す人」「汗を出す人」で成り立っております。

自治会は字の如く自らが治める会であります。即ち、自治会という事業は、良い知恵「企画、情報」を出す組織であり、会員の汗「協力、参加」により、金「資金、物」を集めて事業の推進をはかることであると考えます。

名田島地区の地域力を高めるため、一層のご理解とご協力をお願いいたします。

「地産地消」視察アンケート

◆豊田農業公園みよりの丘

農業体験と併せて地産、地消を進める施設として、規模、環境も最高であった。

イチゴ、トマト、サラダホウレン草等が水耕栽培されていた。味と栄養は？

田園空間博物館構想に基づく拠点施設としての機能をもたせた農村公園で、萩市の町中博物館より早く手がけた事業。都市と農村との交流にはリピーターが欠かせないのでは？

◆道の駅堂街道「西ノ市」

温泉を併設された道の駅は賑わっている。



車内でも交流を深めました

◆道の駅堂街道「西ノ市」

地元の野菜・果物と併せて下関市の特産物が販売されていたのが印象に残った。

建物全体が木造で温かみを感じた。

豊田ホテルの里ミュージアム等立派で驚いた。子供たちのためにもよい施設だった。

規模が大きく、地産特産品も多く、買い物のできたのがよかった。温泉に入れなかったのが残念。温泉に入れて良かった人も……。

◆道の駅さくがわ

地産地消からみたら、適当な規模だと思った。パンコーナー、蜂蜜製品コーナー、民芸品コーナーが印象に残った。菊川平野で地産も進められていると感じた。

◆小日本ふるさと市、100円均一店舗（菊川）

広い店に品物は売れた後だったが、お客さんは多かった。地元野菜がふんだんと聞く。

平成18年度 名田島自治会連合会役員

	氏名	備考
会長	大林基宏	昭和東自治委員
副会長	三輪正明	島上自治委員
副会長	松永君子	婦人会会長
会計	末富長治	東開作自治委員
監事	佐藤勉	消防後援会長
監事	中村治美	防犯対策協議会長
総務部会長	伊藤米秋	新開作沖自治委員
委員	浅原利夫	新開作西自治委員/交通安全対策協議会長
委員	田中充	西開作上自治委員
委員	松永君子	婦人会会長
委員	河村昌俊	公民館運営審議会長
民生部会長	山下武彦	島下自治委員
委員	西村哲郎	西開作下自治委員
委員	末富長治	東開作自治委員
委員	林政雄	社会福祉協議会長
委員	藤津純一	J A 名田島支所長
委員	石川秋彦	老人クラブ会長
委員	河村博次	土地改良区
土木部会長	有富茂夫	向山中自治委員
委員	三輪正明	島上自治委員
委員	福永義之	新開作東自治委員
委員	国重昇	消防団分団長
委員	生田善光	山口市農業委員
教育部会長	内田武義	向山上自治委員
委員	宮崎捷義	向山下自治委員
委員	藤山寿裕	昭和西自治委員
委員	山下宏	体育協会长
委員	中村芳男	青少年育成地区民会議長
事務局	小野雅行	名田島出張所長
事務局	田中澄子	東開作



夏場は20日で出荷できるホウレン草

将来展望

名田島地区の将来の方向性を検討し、集落からの要望事項を取りまとめる。事業の推進には、民意を吸い上げ、各種団体の総意を尊重します。



副会長 松永 君子

心を通わせて 災害に備えよう

私たちのまわりを見渡してみよう。超高齢化社会が迫り、子供にも頼れない時代になり、だれもが一人暮らしの予備軍。これからの地域のあり方を「もしも、地震や台風で地域が孤立したら？」と自分一人では何もできない。昨年の台風で、避難された皆さんのことを思いますと「他人事ではない」との思いが高まります。

自主防災力活性化組織の立ち上げに伴い、地域を挙げて防災講座や災害時に備えた炊き出し訓練などを日頃から行うことによって新たな一歩を踏み出すことができると思います。

少子高齢化社会の今日、いかに将来、安心して暮らせるか、原点と現実を学びつつ、自治会の動きに合わせて、防災については初体験ですが、心の通い合う地域づくりを目指していきます。

名田島地区自主防災会設立総会準備委員

集落名	氏名	備考	部会
島上	久保百合人	防災委員	防災訓練
島下	作岡義弘	防災委員	総務伝達
	坂元鉄兵		
向山下	河村龍男	防災委員	総務伝達
新開作西	末田義久	防災委員	誘導救助
昭和西	重田仁志	防災委員	防災訓練
西開作下	福田啓亮	防災委員	誘導救助
西開作上	佐藤勉	消防後援会長	防災訓練
新開作沖	伊藤米秋	新開作沖自治委員	総務伝達
西開作下	河村昌俊	公民館運営審議会長	総務伝達
島下	山下武彦	島下自治委員	防災訓練
向山上	林政雄	社会福祉協議会長	誘導救助
昭和西	国重昇	消防団分団長	誘導救助
向山上	内田武義	向山上自治委員	誘導救助
向山下	宮崎捷義	向山下自治委員	防災訓練
昭和東	中村芳男	青少年育成地区民会議長	総務伝達



17年度決算 見守り隊や自主防災会 百18万余円

繰越金 約40万円

平成十七年度の収支決算は、下表のとおりです。
 収入は百十八万三千余円。支出は、七十八万六千余円。収支差引、三十九万六千余円を十八年度に繰り越しました。
 この主な事由は、自主防災会の立ち上げを十八年度としたことに伴う防災対策費等の残額が増えたことです。

17年度名田島自治会連合会決算書

(単位：円)

【収入の部】		摘要
	決算額	
自治会費	509,000	474世帯×1,000円 7法人×5,000円
補助金	8,000	防犯ブザー補助金
防災委託料	142,380	地域防災力活性化事業委託料
雑収入	13	預金利息
前年度繰越金	523,974	
合計	1,183,367	

【支出の部】		摘要
	決算額	
会議費	29,710	総会資料 お茶代
負担金	23,000	市自治会会費 先進地視察
事務費	4,907	
備品費	191,625	パソコン プリンター購入
交際費	6,000	慰霊祭 敬老会ほか寸志
交通費	12,000	
研修費	72,239	中部クリーンセンター研修費等
総務部会	35,130	自治会報
民生部会	153,247	地産地消研修費 看板設置
土木部会	25,096	除草剤ランドアップ
教育部会	25,974	防犯ブザー
防災対策費	66,317	防災研修 防災会議 防災会報
防災委託料	141,300	防災委託料配分 啓発紙印刷費
予備費	0	
次年度繰越金	396,822	
合計	1,183,367	

少子化対策は継続

平成十七年度に取り組んだ主な事業は、環境問題、防災

自主防災会

5月21日に設立

四月十八日、自主防災会設立準備委員会を開き、部会や今後の日程を決めました。

- △総務伝達部会 (事業計画、予算、会則、伝達方法等)
- △防災訓練部会 (防災訓練、防災計画、平常時の点検)
- △誘導救助部会 (災害弱者対策、避難所の運営等)

- 第一回会議 五月二日
- 第三回会議 五月十六日
- 設立総会 五月二十一日



防犯対策、地産地消。このうち環境問題では、ゴミの分別収集の徹底化として、中部クリーンセンターなど四力所の環境施設を視察研修し、不法投棄禁止看板を設置しました。
 少子化対策については、設定課題が大きく、具体的な方針が定まっておりませんが、地区全体の課題であり、継続して取り組んでいきます。

編集後記

◆今年の花見は、生憎の天気が続き、雨と寒さに見舞われ、年に一度の楽しみも参加できず、残念でした。◆散る桜、残る桜も散る桜の如く、次の花たちへのバトンタッチを急ぎ、新緑の田園を待ちます。
 ◆地区自主防災会が、いよいよ五月から発足します。訓練だけで終わり、災害の無い安全安心な地区であることを願っています。◆当地区は一足先に少子高齢社会を迎えており、今、一番必要なことは、お年寄りも女性も若者も、みんなが地域全体で智慧を出し合い、それぞれができることをし、助け合って暮らすという地域コミュニティ(共同体)だと思います。◆見守り隊に参加しました。児童が減り、児童の下课時間帯も異なるため、集落ごとに一年生から六年生までを少数の見守り隊員で見守るのは、難しい状況にあります。◆この解決策として、他の集落と連携して広い区域で活動すれば、見守り隊員と児童とがより多く顔見知りになれるのに、と思いました。